

子どもの水辺安全セミナー

海と日本プロジェクト2021

幼児教育の現場から発信する水辺の安全
～楽しく安全な水遊びをどう伝えるか～



2021.06.26

社会福祉法人龍美 ハッピードリーム鶴間（認可保育所）園長 土橋 一智

Profile: (社福) 龍美

ハッピードリーム鶴間

所在地：東京都町田市（東急田園都市線「南町田グランベリーパーク駅」）

施設：認可保育所

規模：定員**142**名(本園**116**名分園**26**名) 職員数：約**50**名(一般職含む)

園児：**0**歳児～**5**歳児(就学前)

【保育の特徴】

- 興味関心を意欲に変える「子ども主体」の保育実践
- 五感を広げる幼児期の「体験の保障」を重視
- 子どもの関係性の成長を促す「異年齢保育」
- 「子が自ら成長する力」を信じ大人が寄り添う保育



保育施設での主な「水」との関わり

●プール活動 (常設・仮設・スイミングクラブ)

●お散歩・遠足などの園外活動場面 (川・池・湖・海)

●キャンプなどの特別活動



今回は当園が取り組んでいる

プール活動

リバーキャンプ活動

について、子どもたちの水の安全の観点からお話しします。

プール活動：保育施設の特性

●0歳児から5歳児がいて、それぞれ配慮すべき点が違うこと

- 身体的成長、関係性成長等の発達段階に応じた安全面と衛生面の配慮が必要
- 子どもの特性を知る（頭が重い、水深によっては一人で起き上がれない）

●感染症等への配慮

- 家庭と連携して疾病や皮膚症状等の把握と観察が必要
- 塩素消毒等の水質安全管理は担当者をつけ、厳密に管理する

●体が小さいため、気温や水温等の影響を受けやすい

- 入水中だけでなく、その前後の体調観察が不可欠
- 水温のほか、WBGT計等で熱中症指数を確認の上で実施を判断する

●プール実施期間内で子どもの慣れや様子によって水深を管理

- 約2ヶ月のプールの期間に水深の設定を適宜判断し変えていく

※プライバシーやプライベートゾーンへの配慮も、もちろん求められます。

プール活動：0歳児

- 0歳児はたらいなどを活用し、基本1対1の個別対応
- 顔色、体色の変化等を観察しながら水を感じる
- 排泄が自立していないため、水は個別に交換する
- 関係性の成長（お友だちと協調して楽しむ）は0～1名、
個々の成長段階で判断する

プール活動：1歳児～2歳児

- 1～2歳児は数人入れる仮設プールを設置
- 保育者の手がすぐに届く範囲で遊ぶ
- 顔色、体色の変化等を観察しながら水を感じる
- 排泄が自立はまちまち、前後のシャワーを実施
- 関係性の成長（お友だちと協調して楽しむ）は数名になる
るので、水鉄砲など一緒に楽しめる遊びも取り入れる

プール活動：3歳児～5歳児(異年齢保育)

- 仮設の大きめなプールを設置（当園は4m×5m程度）
- ルールを理解できる年齢なので、適宜確認し伝えていく
- 浮くことを楽しめる年齢、適宜水深を設定する
- 顔色、体色の変化等を観察しする
- 前後のシャワーを実施
- 関係性の成長（お友だちと協調して楽しむ）は十名以上になる
るので、ゲームや宝探しなどを行っても楽しい

安全を確保した監視体制

- 0歳児～2歳児は保育者はプールに入らず常に手の届く範囲、
溺水しない水深で子どもを見守る
- 3歳児～5歳児はプールに入る保育者のほかに監視専門の職員を
配置。監視者とわかる服装にし、プール外より常に監視する
(加えて、屋外で日中監視のため監視者の体調に留意)
- 安全管理と衛生管理が理解しやすい手順書の作成と徹底周知を
行い、実際にプールでの監視方法を確認し合う
- 「それでも事故は起こる」を前提に、事故が起こった場合に備える
(連絡手段・連携方法・AED設置と使用訓練)

監視員の配置

オレンジのジャケット・オレンジ帽は監視役





プールの安全・衛生管理

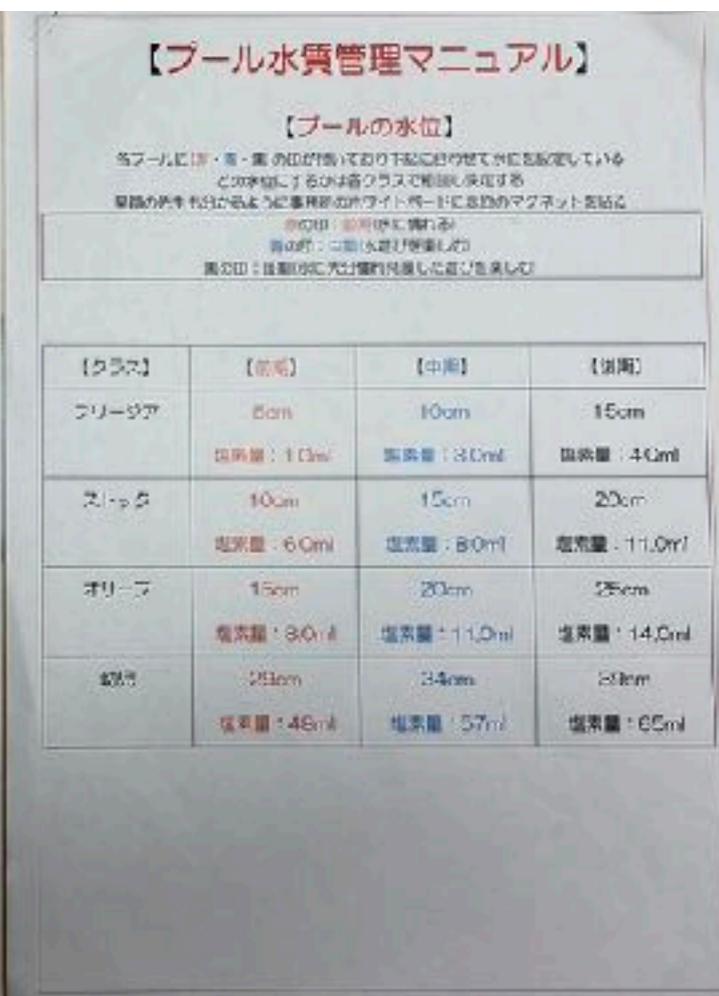
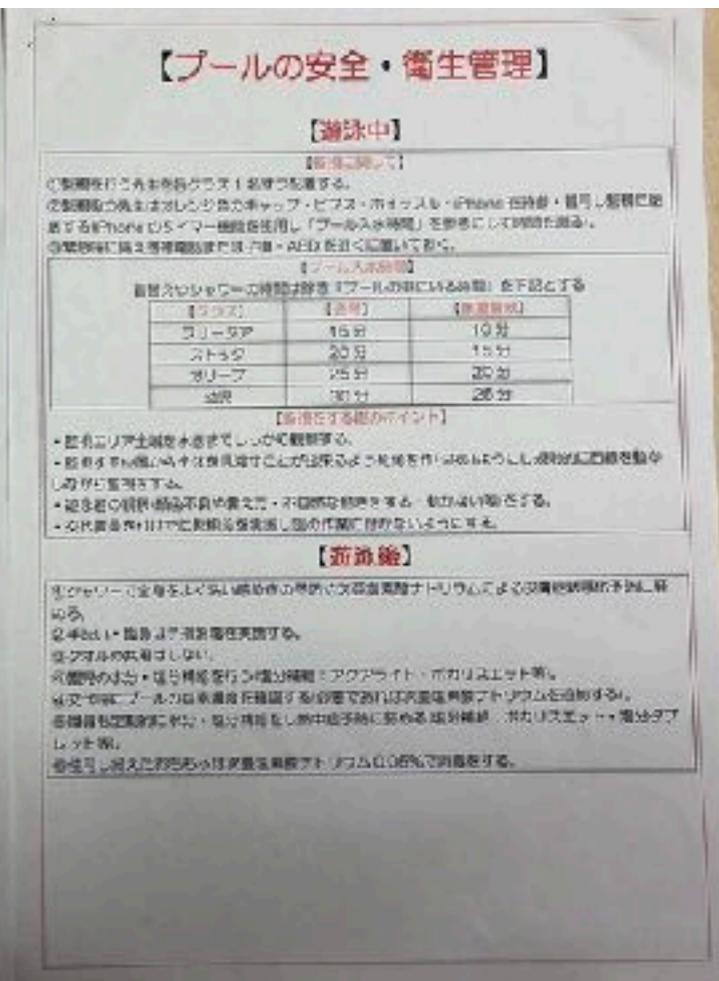
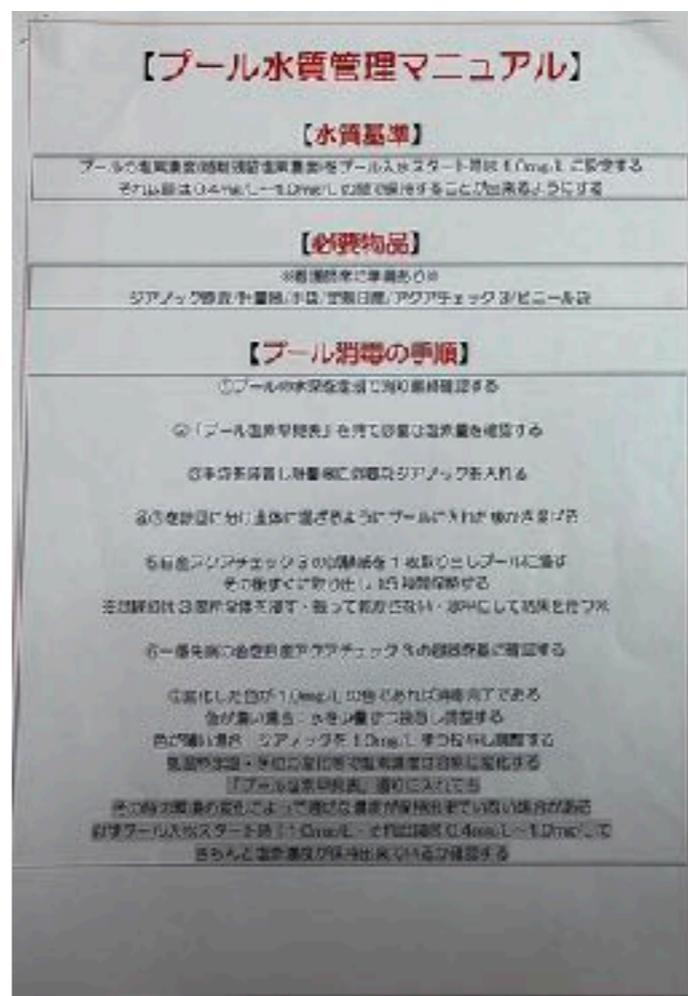
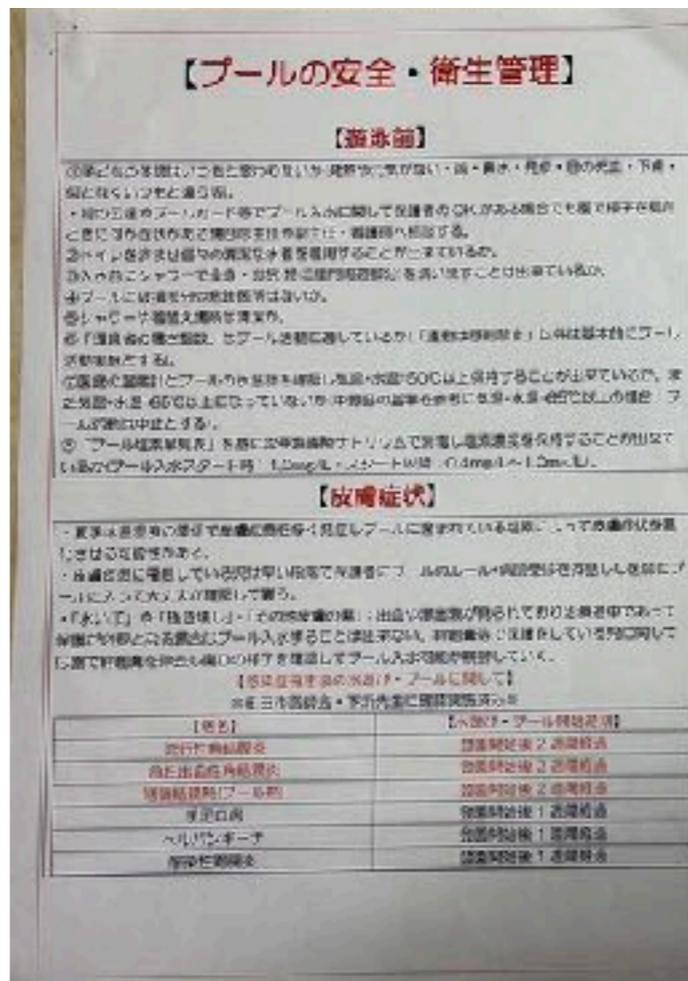
水質管理のマニュアルの一例

施設での安全管理については水にかかわらず教育・保育施設に向けて、様々な場面でのガイドラインや指針、指導が所轄行政等から、示されています。

現場保育者がこれをすべて読み込み、理解して進めていくのは非常に大変です。

施設長からの情報発信や施設の中で役割分担をして、それぞれ必要な事を抜粋要約してわかりやすいかたちで現場職員に知らせていく事で徹底をはかっていく必要があります。

プールの安全・衛生管理に関して当園の職員配布用のマニュアルを参考にお示しします。



【プールの安全・衛生管理】

【遊泳前】

- ①子どもの体調はいつもと変わりないか(発熱や元気がない・咳・鼻水・発疹・目の充血・下痢・何となくいつもと違う等)。
・朝の伝達やプールカード等でプール入水に関して保護者のOKがある場合でも園で様子を見たときに何か症状がある場合は主任や副主任・看護師へ相談する。
- ②トイレを済ませ個々の清潔な水着を着用することが出来ているか。
- ③入水前にシャワーで全身・お尻(特に肛門周辺部分)を洗い流すことは出来ているか。
- ④プールに破損部分や危険箇所はないか。
- ⑤シャワーや着替え場所は清潔か。
- ⑥「環境省の暑さ指数」はプール活動に適しているか(「運動は原則禁止」以外は基本的にプール活動実施とする)。
- ⑦園庭の温度計とプールの水温計を確認し気温+水温=50℃以上保持することが出来ているか。また気温+水温=65℃以上になっていないか(中野区の基準を参考に気温+水温=65℃以上の場合はプール活動は中止とする)。
- ⑧「プール塩素早見表」を基に次亜塩素酸ナトリウムで消毒し塩素濃度を保持することが出来ているか(プール入水スタート時：1.0mg/L・スタート以降：0.4mg/L~1.0mg/L)。

【皮膚症状】

- ・夏は高温の関係で皮膚疾患を多く発症しプールに含まれている塩素によって皮膚症状を悪化させる可能性がある。
- ・皮膚疾患に罹患している児は早い段階で保護者にプールのルール+病院受診をお話しし医師にプールに入って大丈夫か確認してもらう。
- ・「水いぼ」や「掻き壊し」・「その他皮膚の傷」：出血や滲出液が見られており治療中であって保護が必要となる場合はプール入水することは出来ない。絆創膏等で保護をしている児に関しては園で絆創膏を除去し傷口の様子を確認してプール入水可能か検討していく。

【感染症罹患後の水遊び・プールに関して】

※町田市医師会・下浜先生に確認実施済み※

【病名】	【水遊び・プール開始時期】
流行性角結膜炎	登園開始後 2週間経過
急性出血性角結膜炎	登園開始後 2週間経過
咽頭結膜熱(プール熱)	登園開始後 2週間経過
手足口病	登園開始後 1週間経過
ヘルパンギーナ	登園開始後 1週間経過
感染性胃腸炎	登園開始後 1週間経過

【プールの安全・衛生管理】

【遊泳中】

【監視に関して】

- ①監視を行う先生を各クラス1名ずつ配置する。
- ②監視役の先生はオレンジ色のキャップ・ビブス・ホイッスル・iPhoneを持参・着用し監視に徹底する(IPhoneのタイマー機能を使用し「プール入水時間」を参考にして時間を測る)。
- ③緊急時に備え携帯電話または子機・AEDを近くに置いておく。

【プール入水時間】

着替えやシャワーの時間は除き「プールの中にいる時間」を下記とする

【クラス】	【通常】	【耐量減減】
フリージア	15分	10分
ストック	20分	15分
オリーブ	25分	20分
幼児	30分	25分

【監視をする際のポイント】

- ・監視エリア全域を水面までしっかり観察する。
- ・監視する位置から全体を見渡すことが出来るよう死角を作らないようにし定期的に視線を動かしながら監視をする。
- ・遊泳者の観察(顔色不良や見え方・不自然な動きをする・動かない等)をする。
- ・交代要員を付けずに監視役を実施し別の作業に付かないようにする。

【遊泳後】

- ①シャワーで全身をよく洗い感染症の予防や次亜塩素酸ナトリウムによる皮膚症状悪化予防に努める。
- ②手洗い・職員は手拭消毒を実施する。
- ③タオルの共用はしない。
- ④園児の水分・塩分補給を行う(塩分補給：アクアライト・ポカリスエット等)。
- ⑤交代時にプールの塩素濃度を確認する(必要であれば次亜塩素酸ナトリウムを追加する)。
- ⑥職員も定期的に水分・塩分補給をし熱中症予防に努める(塩分補給：ポカリスエット・塩分タブレット等)。
- ⑦使用し終えたおちっちゃは次亜塩素酸ナトリウム0.05%で消毒をする。

【プール水質管理マニュアル】

【水質基準】

プールの塩素濃度(遊離残留塩素濃度)をプール入水スタート時は 1.0mg/L に設定する
それ以降は 0.4mg/L~1.0mg/L の間で保持することが出来るようにする

【必要物品】

※看護師席に準備あり※

シアノック原液/計量器/手袋/定規/日産/アクアチェック 3/ビニール袋

【プール消毒の手順】

①プールの水深を定規で測り最終確認する

②「プール塩素早見表」を見て必要な塩素量を確認する

③手袋を装着し計量器に必要なシアノックを入れる

④③を数回に分け全体に混ぜるようにプールに入れた後かき混ぜる

⑤日産アクアチェック 3 の試験紙を 1 枚取り出しプールに浸す

その後すぐに取り出し 15 秒間保持する

※試験紙は 3箇所全体を浸す・振って乾かさない・水平にして結果を待つ※

⑥一番先端の色を日産アクアチェック 3 の容器を基に確認する

⑦変化した色が 1.0mg/L の色であれば消毒完了である

色が濃い場合：水を少量ずつ投与し調整する

色が薄い場合：シアノックを 1.0mg/L ずつ投与し調整する

気温や水温・水位の変化等で塩素濃度は容易に変化する

「プール塩素早見表」通りに入れても

その時の環境の変化によって適切な濃度が保持出来ていない場合がある

必ずプール入水スタート時：1.0mg/L・それ以降は 0.4mg/L~1.0mg/L で

きちんと塩素濃度が保持出来ているか確認する

【プール水質管理マニュアル】

【プールの水位】

各プールに(赤・青・黒)の印が付いており下記に合わせて水位を設定している
どの水位にするかは各クラスで相談し決定する
早番の先生も分かるように事務所のホワイトボードに水位のマグネットを貼る

赤の印：前期(水に慣れる)

青の印：中期(水遊びを楽しむ)

黒の印：後期(水に大分慣れ発展した遊びを楽しむ)

【クラス】	【前期】	【中期】	【後期】
フリーシア	5cm 塩素量：1.0ml	10cm 塩素量：3.0ml	15cm 塩素量：4.0ml
ストック	10cm 塩素量：6.0ml	15cm 塩素量：8.0ml	20cm 塩素量：11.0ml
オリーブ	15cm 塩素量：8.0ml	20cm 塩素量：11.0ml	25cm 塩素量：14.0ml
幼児	29cm 塩素量：48ml	34cm 塩素量：57ml	39cm 塩素量：65ml

★リバーキャンプの取り組み★

当園では5歳児の特別活動として、子どもたちと引率職員だけでいく一泊のリバーキャンプを実施しています。

保護者向け説明会用の資料をつかって、この取り組みについてご説明します。

保護者説明用資料

クローバー

お泊まりキャンプについて

～抜粋～

開催概要

日時：

8月2日(金)～8月3日(土)

場所：東京都あきる野市

『コテージ森林村』

交通手段：

バス（貸切）

交通ルート：

東名横浜町田IC～

圏央道あきる野IC、約1時間半



お泊まりキャンプの目的

▶ 【目的】（企画書から）

- 友だちと様々な経験をする中で、協力することの大切さや喜びを味わい達成感に繋げる。
- 自然の中で保育園での生活ではできない体験をする。

▶ 【ねらい】

- 仲間と意見を出し合って、様々なことを協力してやり遂げる。
- 保護者と離れて過ごす中で、自分でできることを見つけ自信を育む
- 自然の中で遊ぶ楽しさと危険性を知り、ルールを守ってダイナミックに楽しむ。
- 命の授業を通して食べ物大切さを知る。

お泊まりキャンプの視点

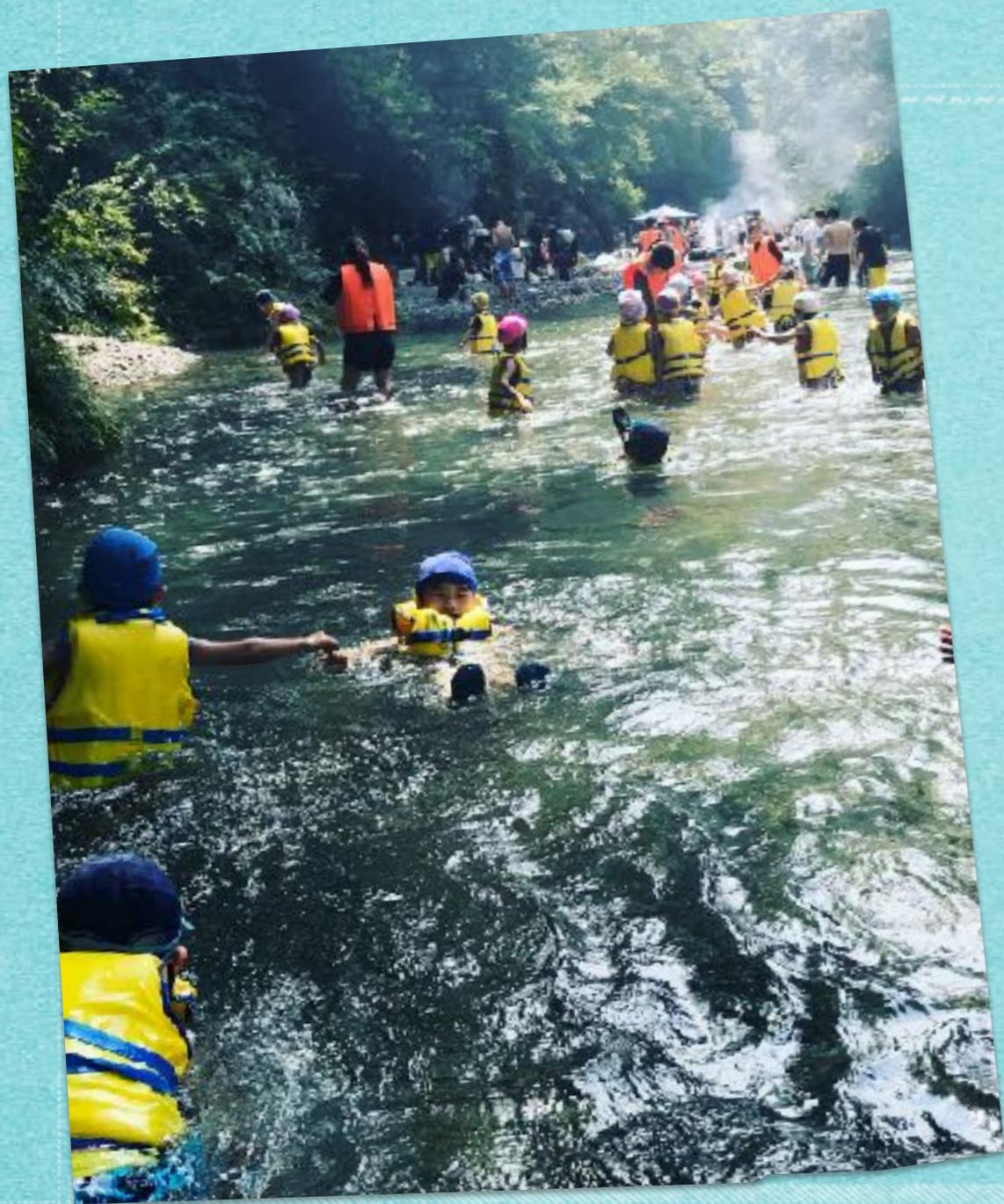
- ▶ **【教育的観点から】** (体験の保障・自己肯定感・主体性を尊重した計画)
 - 自然の中でダイナミックに遊びながら自然に親しむことで、自然を学び、普段できない体験をする (自然散策・魚・虫・川遊び・大きな炎などなど)
 - きれいな川での遊びを通して、勇気を持って挑戦する気持ちや達成感を学ぶ
 - 生きている魚を通して、命やそれを頂きながら生きていることを学び感謝の気持ちの芽生えを持つ
 - 川 (水) の特性を体感し、流れの速さや水深の違いでの危険性も含めた経験をする。
 - 親元を離れて仲間と一晩を過ごす体験を通して自立心を向上する
 - 当日までの保育の中で主体的に興味や関心を引き出し、合議し、協力して計画を実施することにより、自己肯定感を育む
 - 子どもたちが安心して楽しく過ごせること

お泊まりキャンプの視点

▶ 【安全衛生確保の観点から】

- キャンプ場の選定は川面から宿泊設備まで高低差が5 m以上あること。
- 川がきれい透明度が高いこと。また本流は穏やかであること。
- 川遊びでは子どもも大人も必ずライフジャケットを着用すること。
- 宿泊設備について、シャワー等があること。水洗のトイレがあること、空調設備を有すること。
- バスの乗車時間の想定が片道1時間半程度であること。
- 周辺に医療施設があること。
- 必要な引率者数を確保できる計画であること。

去年の様子



ロケーションの説明動画



今年もいろいろな計画を
子どもたちと話し合いながら
普段できないような体験を
自然の中で学んできます。
楽しんできたいと思います。

保育園に帰ってきた時の
疲れ切った中に見える
頼もしく成長した顔を
楽しみにしてください。



ご家庭で川や海にお出かけ時に
乳児用・幼児用・大人用、それぞれの
ライフジャケットを園から貸し出しをしています。



開催にあたって重要な事前確認

- 引率者全員で下見を！できれば複数回
 - 下見は必ず当日の進行をイメージしながら実施する
 - 安全面と衛生面、環境面の確認
 - 川の位置と特性をキャンプ場スタッフに確認し事前に把握しておく
 - ダム下？源流直？水深、水流への影響の傾向、放水警報等
 - 川相（河原、水深、流れ、流心、淵、浅瀬）
 - 遊泳区画のイメージ等
 - **下見でリスク(管理できる危険)・ハザード(管理できない危険)を明確に**
-

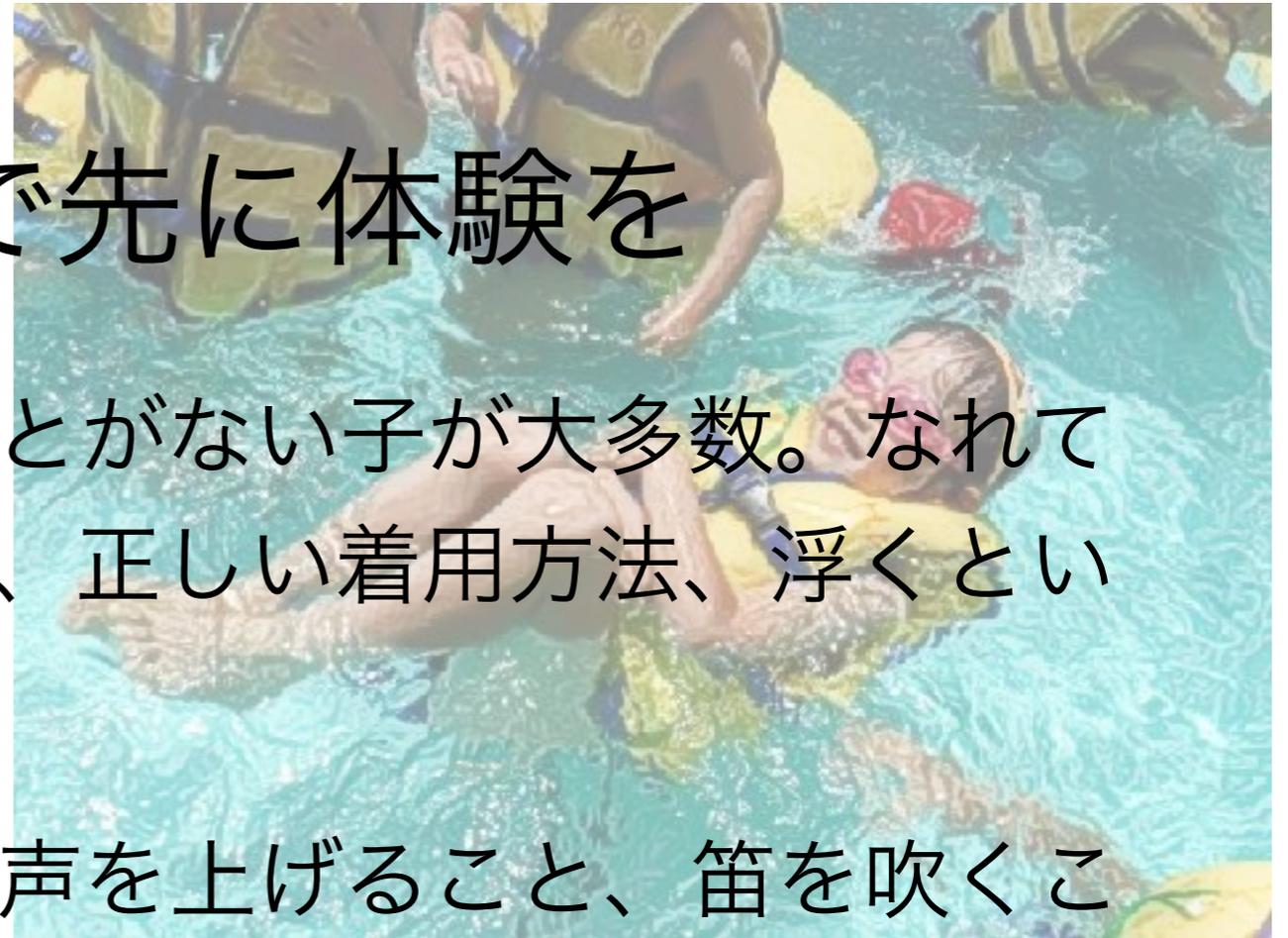
子どもたちに事前にイメージを

- 計画は子どもたちと共に(写真も活用して)

- ライフジャケットはプールで先に体験を

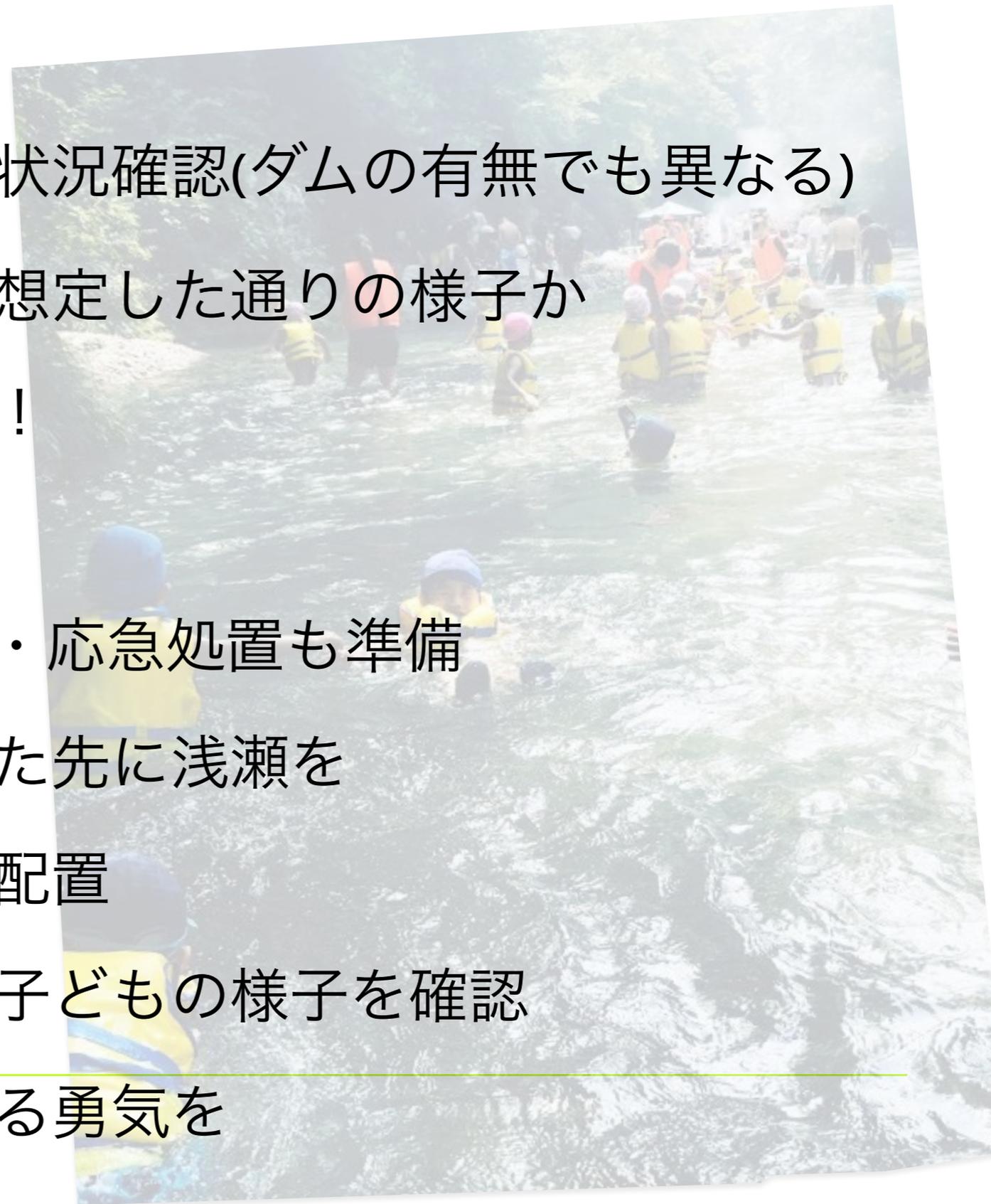
- ライフジャケットを着用したことがない子が大多数。なれている園のプールで先に体験をし、正しい着用方法、浮くという特性を事前に体験しておく

- 特に、もし助けてほしい時には声を上げること、笛を吹くこともできることなどを体験しておく。



当日、気をつけること

- 上流部の前日までと当日の降雨状況確認(ダムの有無でも異なる)
- 川の流れ、水深、河原、天候は想定した通りの様子か
- 子どもも大人もライジヤケ着用！
- 人数確認は常に声かけを
- 職員のフォーメーションを確認・応急処置も準備
- 万が一、最終防衛ラインを超えた先に浅瀬を
- 川に入らない監視者も必ず複数配置
- 10分～15分ごとに休憩し、子どもの様子を確認
- 川の様子が**想定外**なら**即中止**する勇気を



安全のために大切なのは「水」の 活動をする「目的」に向かうための想定

水に関することで多くの悲しい事故が起こっています。特に溺水はあっという間に死に直結する事故になります。所轄行政からの指導や通知内容も厳格です。それでも夏になるとほとんどの幼稚園・保育園・認定こども園ではプールで遊びます。川や海に近い施設ではそこに出かけて泳いだりします。

何でプールや水辺での活動をしているんですか？

- 毎年やっている決まり事だから
- 暑い夏に水辺やプールで遊ぶのは当たり前だから
- 同じように今までやってきたけど事故なんてなかったから

今一度、「安全が前提」を中心において活動の目的を確認し、

それに応じた見直しをしてみませんか？

結びのメッセージ

ライフジャケットを着ると、「楽しかった！」だけで何も起こらない。

何も起こらない事が当たり前だから、ライジャケを着て遊んだことで、どれだけの命が守られたのか成果は見えない。だって何も起こらなかったから。

何も起こらないことがどれだけ大事なことなのか、本当の意味でそのことを知るのには、突然に愛する人を失った人たち。そして失われた命そのもの。

このプロジェクト、今日の学びの時間の最高の終着点は「何も起こらないこと」 私たち子どもに関わるすべての大人は、その「何も起こらないこと」の大切さを学び「何も起こらないこと」を目指し、常に意識しつづけていきませんか？



子どもたちにライジャケを！
